

平成29年度佐賀県小・中学校学習状況調査[12月調査]

教科に関する調査

結果の概要、成果と課題及び指導改善のポイント

— 中学校版 —

平成30年2月19日（月）

佐賀県教育委員会

－ 目 次 －

教科ごとの調査結果とその分析

◎国語		
(1) 結果の概要	．．．．．	2
(2) 成果と課題及び指導改善のポイント	．．．．．	4
◎社会		
(1) 結果の概要	．．．．．	6
(2) 成果と課題及び指導改善のポイント	．．．．．	8
◎算数・数学		
(1) 結果の概要	．．．．．	10
(2) 成果と課題及び指導改善のポイント	．．．．．	12
◎理科		
(1) 結果の概要	．．．．．	14
(2) 成果と課題及び指導改善のポイント	．．．．．	16
◎英語		
(1) 結果の概要	．．．．．	18
(2) 成果と課題及び指導改善のポイント	．．．．．	20

教科ごとの調査結果とその分析

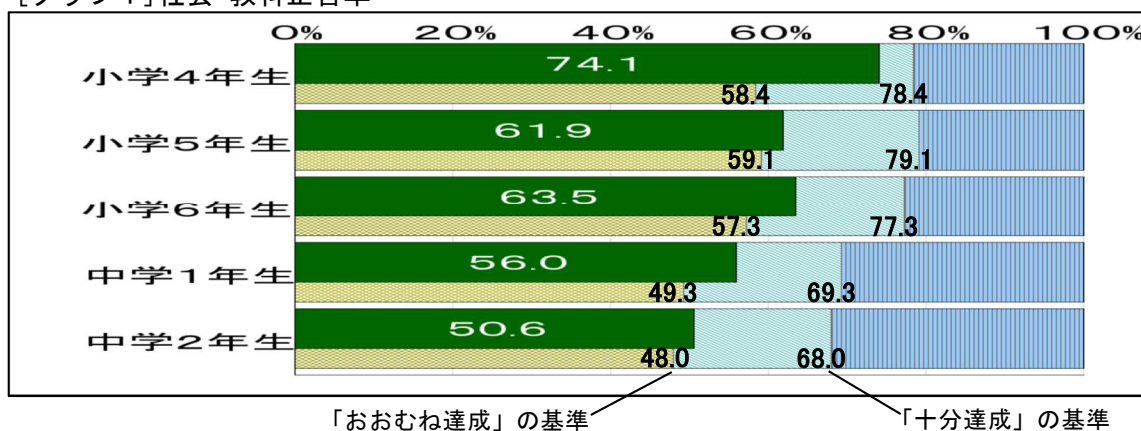
社 会

◎ 社会

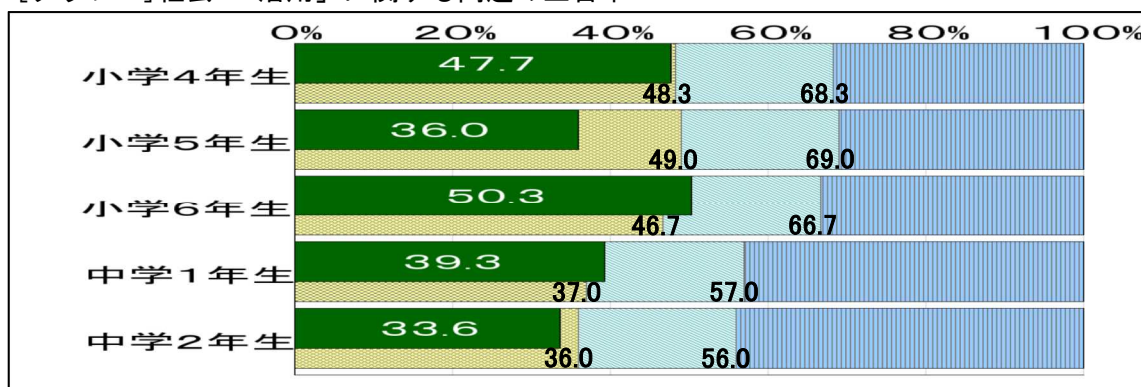
(1) 結果の概要

- 教科正答率は、小・中学校共に全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。
[グラフ1]
- 「活用」に関する問題については、小学4年生と小学5年生、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ2]
- 観点別に見ると、小学4年生と小学6年生、中学1年生は、全ての観点で「おおむね達成」の基準を上回っている。「観察・資料活用（資料活用）の技能」「社会的事象についての知識・理解」については、小・中学校共に全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。特に、「社会的事象についての知識・理解」については、小学4年生で「十分達成」の基準を上回っている。「社会的な思考・判断・表現」については、小学5年生と中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ3～5]
- 内容・領域別に見ると、小学4年生の「地域の生産や販売」「安全を守る」、中学1年生の「世界の生活と環境」については、「十分達成」の基準を上回っている。小学5年生の「国土の様子」「食料生産の様子」、小学6年生の「工業の様子（5年の学習内容）」、中学1年生の「歴史の捉え方」、中学2年生の「世界の諸地域」「中世」については、「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ6～10]

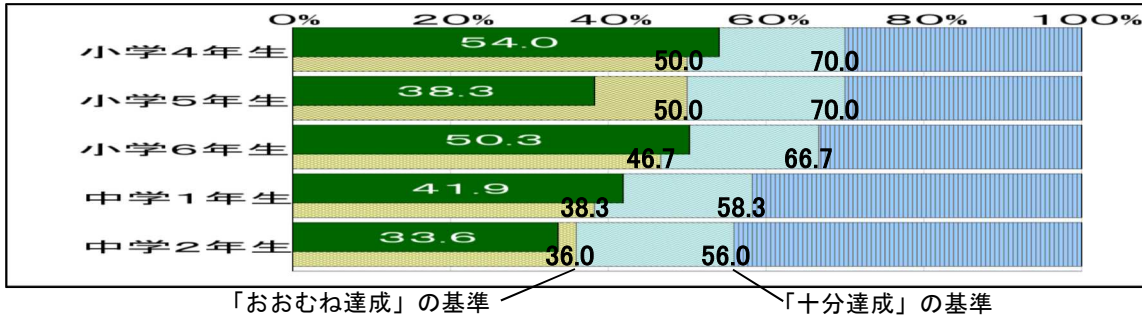
[グラフ1]社会 教科正答率



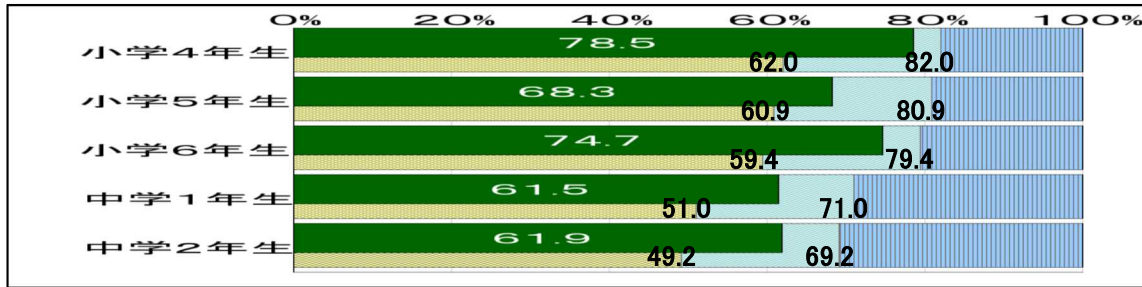
[グラフ2]社会 「活用」に関する問題の正答率



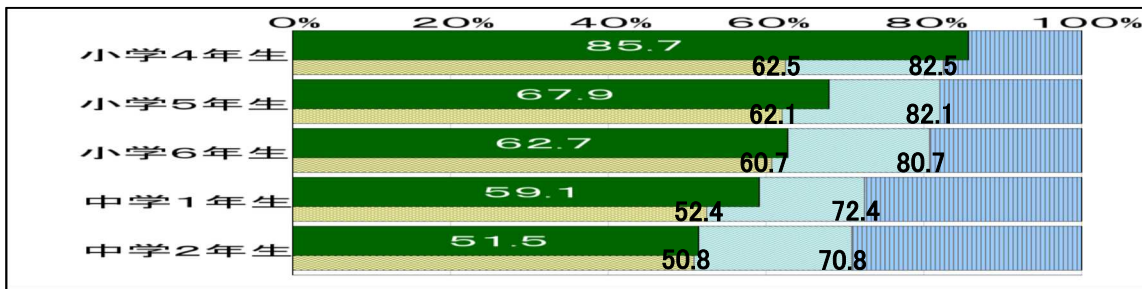
[グラフ3]社会「社会的な思考・判断・表現」観点の正答率



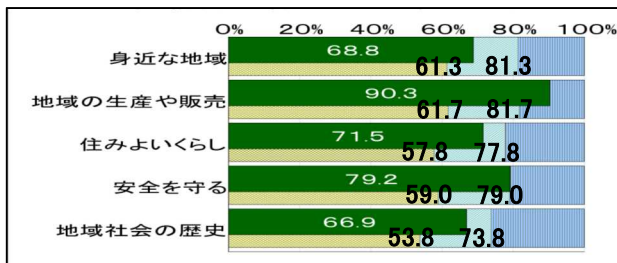
[グラフ4]社会「観察・資料活用（資料活用）の技能」観点の正答率



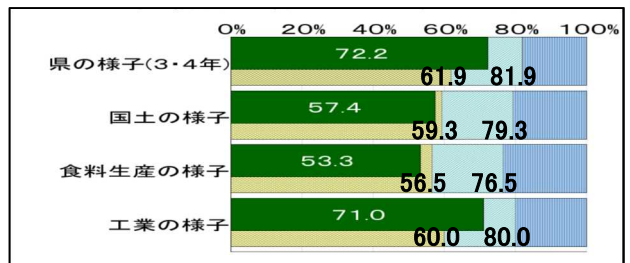
[グラフ5]社会「社会的事象についての知識・理解」観点の正答率



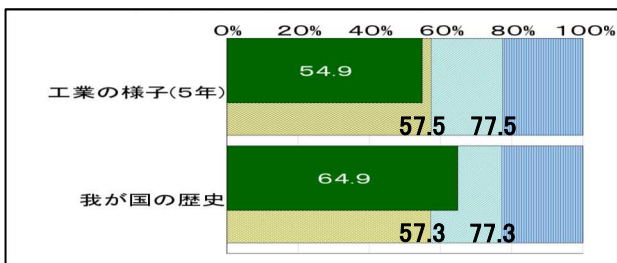
[グラフ6]小学4年生 内容・領域別正答率



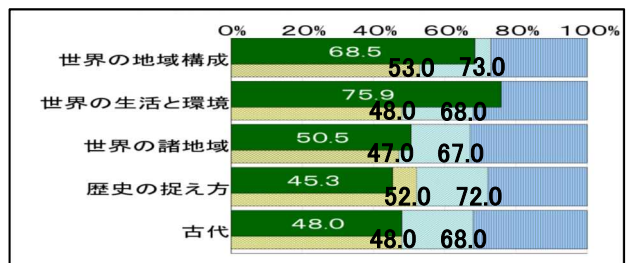
[グラフ7]小学5年生 内容・領域別正答率



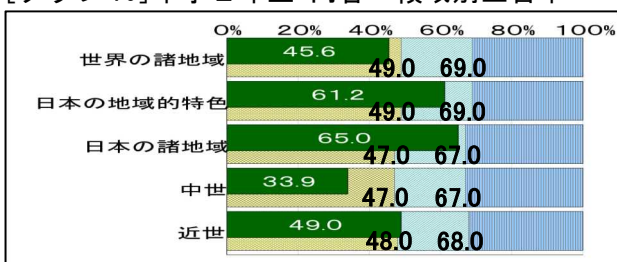
[グラフ8]小学6年生 内容・領域別正答率



[グラフ9]中学1年生 内容・領域別正答率



[グラフ10]中学2年生 内容・領域別正答率



※ [グラフ7]の「県の様子(3・4年)」という表記は、第3・4学年で学習する内容であることを示している。

※ [グラフ8]の「工業の様子(5年)」という表記は、第5学年で学習する内容であることを示している。

(2) 成果と課題及び指導改善のポイント

中学校社会（中学１年生、中学２年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 地理的分野において、社会的事象に関する基本的な知識が身に付いている。
(中学１年生 $\boxed{1}\boxed{1}\boxed{3}\boxed{2}\boxed{1}\boxed{3}$ 、中学２年生 $\boxed{2}\boxed{2}\boxed{1}\boxed{3}\boxed{1}\boxed{2}\boxed{3}$)
- ◇ 資料から適切な情報を読み取ったり、適切な資料を選択したりする技能が身に付いている。
(中学１年生 $\boxed{2}\boxed{2}\boxed{5}$ 、中学２年生 $\boxed{6}\boxed{1}\boxed{1}\boxed{2}\boxed{4}$)
- ◆ 1 歴史的分野において、歴史の捉え方や政治の経過の理解に課題が見られる。
(中学１年生 $\boxed{4}\boxed{1}\boxed{2}\boxed{4}\boxed{5}$ 、中学２年生 $\boxed{6}\boxed{2}\boxed{3}$)
- ◆ 2 歴史的分野において、社会的事象に関する基本的な知識の理解に課題が見られる。
(中学１年生 $\boxed{5}\boxed{4}\boxed{6}\boxed{3}$ 、中学校２年生 $\boxed{4}\boxed{1}\boxed{2}\boxed{3}\boxed{5}\boxed{1}\boxed{6}\boxed{2}\boxed{1}\boxed{2}$)
- ◆ 3 資料を基に、社会的事象の特色や事象間を関連付けて説明することや、社会的事象の意味や意義を解釈し理由を説明することに課題が見られる。
(中学１年生 $\boxed{5}\boxed{3}\boxed{5}$ 、中学２年生 $\boxed{3}\boxed{4}\boxed{4}\boxed{4}\boxed{5}\boxed{3}$)

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆ 1 歴史学習の基盤となる時代区分や年代の表し方、時代の流れを理解できるようにするためには、生徒が時代を大観することができるような指導を行うことが大切です。
 - 単元の導入等において、小学校で学習してきた歴史上の人物や出来事などの知識を想起させ、生徒が発表したりまとめたりしながら、時代ごとのイメージをもてるようにしていますか。
 - 時代ごとの学習に取り組む際も、ICT機器、ワークシートなどを活用して年表を提示することにより、時代の流れや前後の関連を確かめることができるようにするとともに、時代区分や年代の表し方などについても継続的・計画的に振り返らせていますか。
- ◆ 2 社会的事象に関する基礎的・基本的な知識を習得させるためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 一問一答形式の小テストや重要語句を記憶しているかを確認するような発問を行うだけではなく、生徒が社会的事象の意味を考えたり、事象の特色や事象間の関連を説明したりするような発問を行ったり、活動を位置付けたりしていますか。
 - 単元や授業のまとめをする際に、生徒が、本単元や本時で学習したことや既習事項を用いて、自分の言葉で説明したり、ワークシートにまとめたりする活動を設定していますか。
- ◆ 3 資料から読み取った情報を基に、社会的事象の特色や事象間を関連付けて説明する力や、社会的事象の意味や意義を解釈し理由を説明する力を育成するためには、課題を追究したり解決したりする活動を授業に位置付けることが大切です。
 - 生徒が興味を示したり、疑問をもったりするような、社会的事象に関する具体的な事実を示す写真やグラフなどの資料を提示するなどして、生徒の関心を高めていますか。
 - 生徒の疑問や気付きから「なぜ～?」「どのように（な）～?」など、単元を通した課題を設定し、単元を通して、その課題を生徒が追究したり解決したりする活動を設定していますか。
 - 課題を追究したり解決したりする活動の中で、生徒が資料から読み取った情報を基に、理由を考えたり、自分の考えを説明したりするような活動を設定していますか。
 - 生徒が自分の考えを説明する際に、そのように考えた根拠を示したり、そのように考えた理由を述べたりすることができるように指導していますか。



他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て(方法)とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。

教科ごとの調査結果とその分析

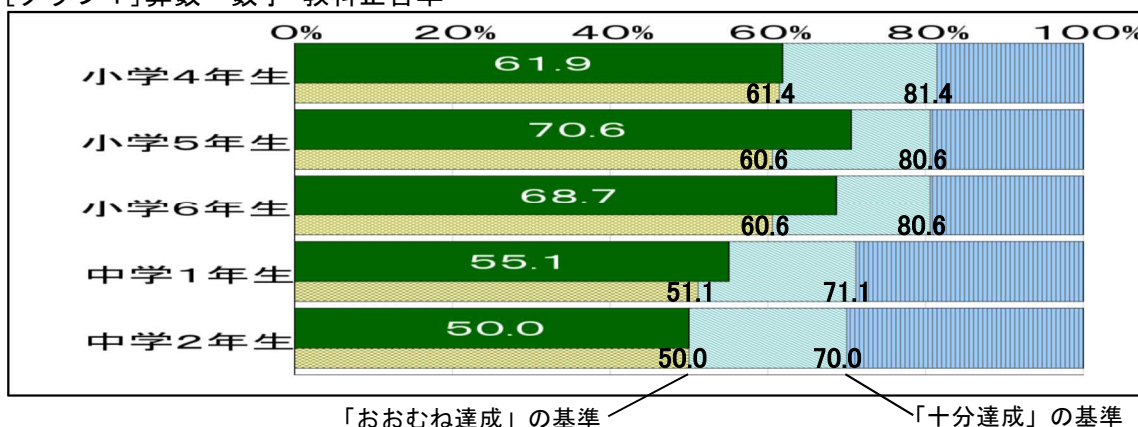
算数・数学

◎ 算数・数学

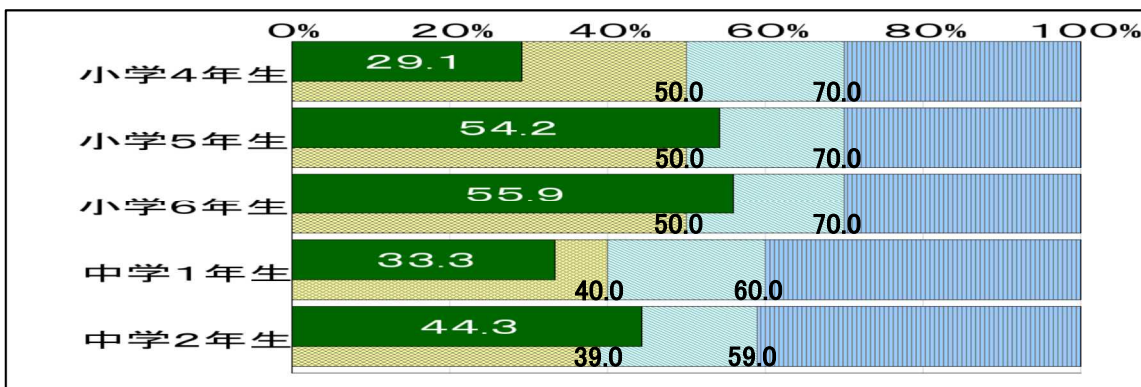
(1) 結果の概要

- 教科正答率は、小学校全ての学年、中学1年生で「おおむね達成」の基準を上回っている。中学2年生で「おおむね達成」の基準と同値である。[グラフ1]
- 「活用」に関する問題については、小学4年生と中学1年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ2]
- 観点別に見ると、小学5年生と小学6年生は、全ての観点で「おおむね達成」の基準を上回っている。「数量や図形についての（数学的な）技能」については、小・中学校の全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。「数学的な考え方（見方や考え方）」については、小学4年生と中学1年生、「数量や図形（など）についての知識・理解」については、小学4年生と中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ3～5]
- 内容・領域別に見ると、小学校では、「数と計算」「量と測定」については、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。「図形」については、小学4年生と小学5年生、「数量関係」については、小学4年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。中学校では、「数と式」については、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。「図形」「関数」「資料の活用」については、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ6～10]

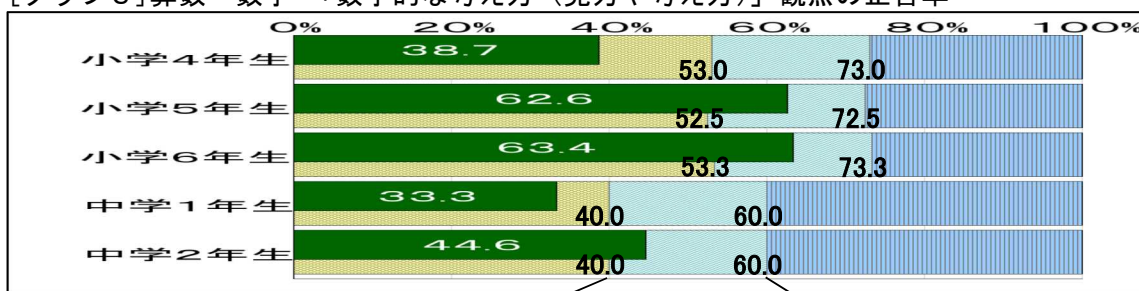
[グラフ1]算数・数学 教科正答率



[グラフ2]算数・数学 「活用」に関する問題の正答率



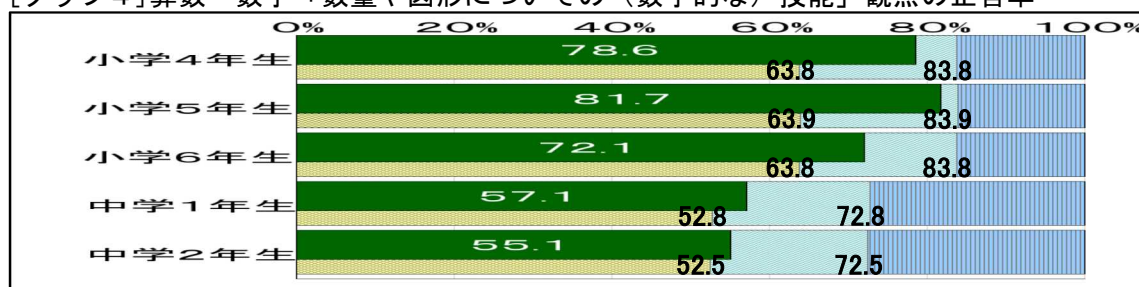
[グラフ3]算数・数学 「数学的な考え方（見方や考え方）」観点の正答率



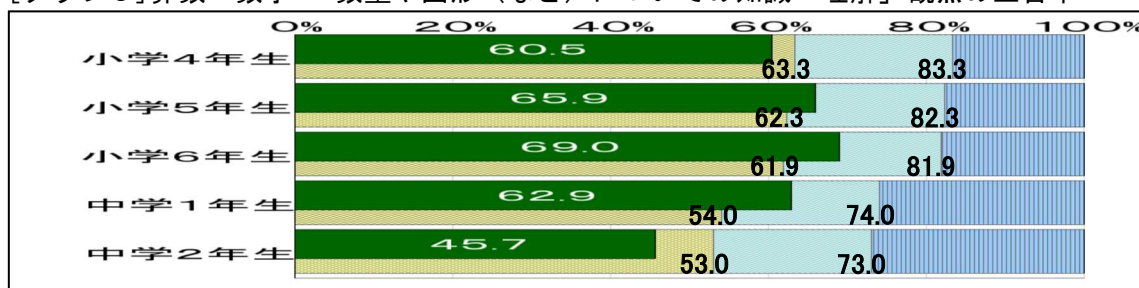
「おおむね達成」の基準

「十分達成」の基準

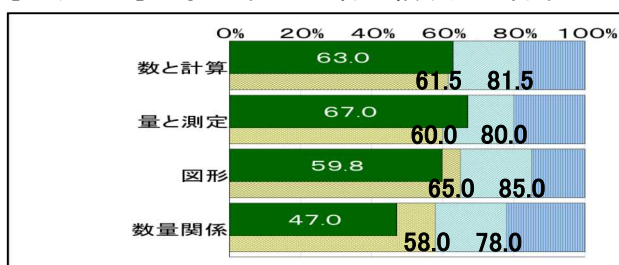
[グラフ4]算数・数学 「数量や図形についての（数学的な）技能」観点の正答率



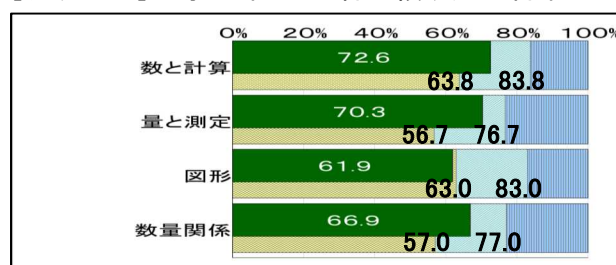
[グラフ5]算数・数学 「数量や図形（など）についての知識・理解」観点の正答率



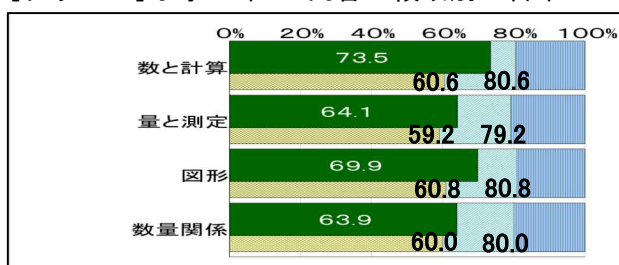
[グラフ6]小学4年生 内容・領域別正答率



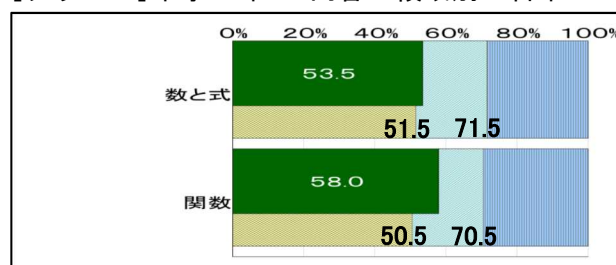
[グラフ7]小学5年生 内容・領域別正答率



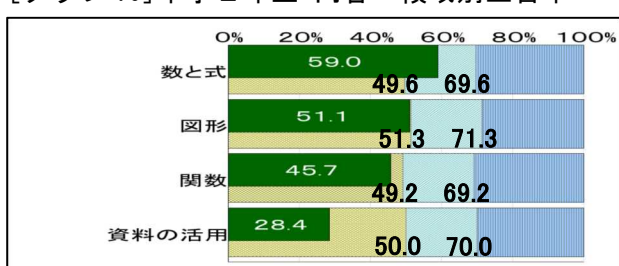
[グラフ8]小学6年生 内容・領域別正答率



[グラフ9]中学1年生 内容・領域別正答率



[グラフ10]中学2年生 内容・領域別正答率



(2) 成果と課題及び指導改善のポイント


中学校数学（中学1年生、中学2年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 正の数と負の数の計算、同類項をまとめる計算、連立二元一次方程式を解く技能が身に付いている。
(中学1年生¹(1)(2)、中学2年生¹(1)(3)(3))
- ◇ 問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。
(中学1年生⁶(1)、中学2年生⁴(1)(5)(1))
- ◆ 1 比例や反比例の関係を式に表したり、一次関数の表から x と y の関係を式に表したりすることに課題が見られる。
(中学1年生⁹(2)(10)(2)、中学2年生⁹(3))
- ◆ 2 資料から範囲を求めたり、度数分布表から相対度数や最頻値を求めたりすることに課題が見られる。
(中学2年生¹¹(12)(1)(2))
- ◆ 3 文字を用いた不等式から数量の大小関係を読み取って説明すること、事柄が成り立つ理由を構想を立てて説明することに課題が見られる。
(中学1年生⁸、中学2年生⁵(2))

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆ 1 比例や反比例の関係を式に表したり、一次関数の表から x と y の関係を式に表したりすることができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - ☐ 比例、反比例、一次関数の式が、それぞれ $y=ax$ 、 $y=a/x$ 、 $y=ax+b$ で表されることを、生徒が確実に理解できるようにしていますか。
 - ☐ 比例や反比例、一次関数の特徴を、式だけでなく、表やグラフでも捉えることができるようにし、生徒が、表、式、グラフを相互に関連付けて考えるような活動を通して、理解を図るようにしていますか。
- ◆ 2 資料から範囲を求めることや度数分布表から相対度数や最頻値を求めることができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - ☐ 資料の活用における「範囲」の意味や表し方が、日常生活で用いる「範囲」という言葉の意味や表し方とは異なるということを、生徒が理解できるようにしていますか。
 - ☐ 総度数が異なる資料を比較する際に、階級の度数をそのまま比較することが適切ではないことを生徒が実感できるような場面を設定し、「相対度数」の意味や「相対度数」で表すことの必要性を、生徒が理解できるようにしていますか。
 - ☐ 度数分布表から最頻値を求める際に、「度数の最も多い階級の階級値を最頻値として用いる」ということを、生徒が理解できるようにしていますか。
 - ☐ 度数分布表から資料の傾向を捉える際に、相対度数を求めたり、ヒストグラムから資料の傾向を捉える際に、範囲を確認させ、代表値として平均値、中央値、最頻値を求めたりするような活動を授業に位置付けていますか。
- ◆ 3 文字を用いた不等式から数量の大小関係を読み取って説明したり、事柄が成り立つ理由を構想を立てて説明したりすることができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - ☐ 生徒が、式から読み取ったことや事柄が成り立つ理由などを記述したり、他者に説明したりする活動を設定し、適切な指導を行っていますか。
 - ☐ 生徒が記述したり説明したりした内容が適切であるかどうかを生徒同士が互いに吟味し合っ、て、よりよい表現にしていくような活動を授業に位置付けていますか。
 - ☐ 生徒が、事柄が成り立つ理由を説明する際に、根拠を明確にすることや、結論までを確実に表現することを指導していますか。

 他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て(方法)とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。

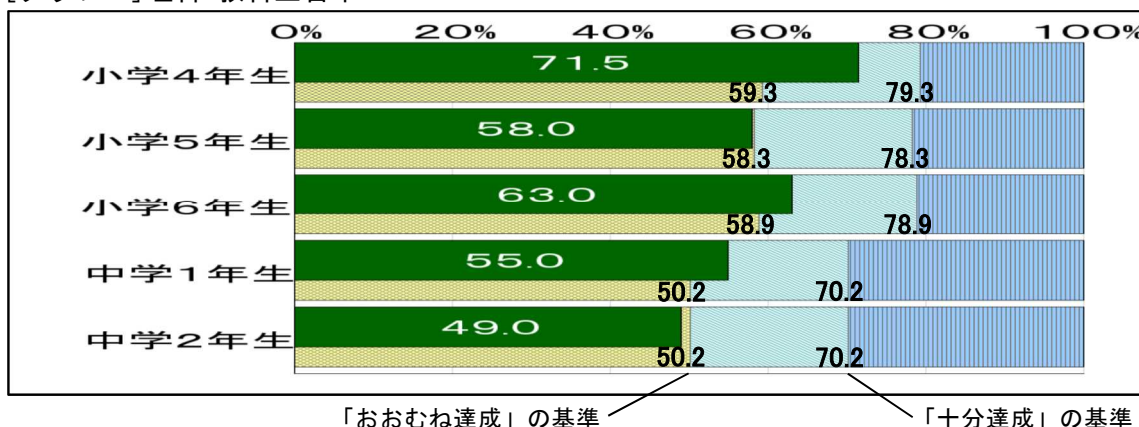
教科ごとの調査結果とその分析

理 科

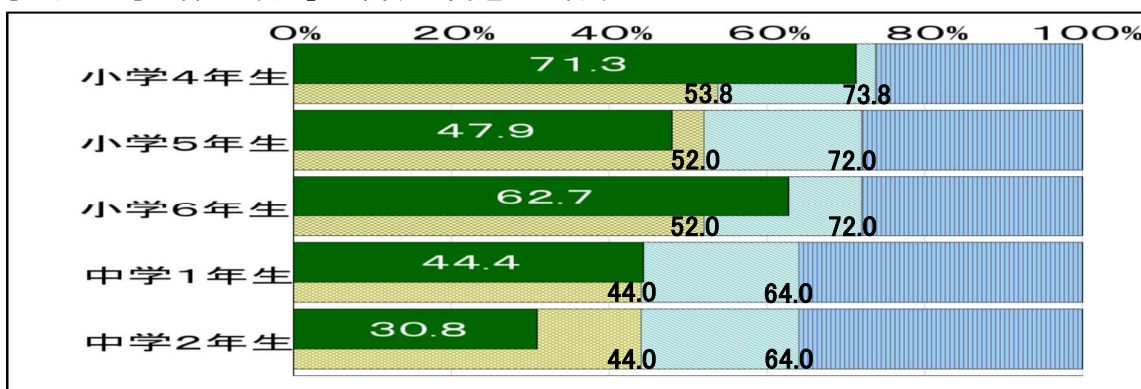
(1) 結果の概要

- 教科正答率は、小学5年生、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。【グラフ1】
- 「活用」に関する問題については、小学5年生、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。【グラフ2】
- 観点別に見ると、小学4年生は、全ての観点で「おおむね達成」の基準を上回っている。「科学的な思考・表現」については、中学1年生、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。「観察・実験の技能」については、小学5年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。「自然事象についての知識・理解」については、小学5年生と小学6年生、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。【グラフ3～5】
- 内容・領域別に見ると、小学校では、「生命・地球」については、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。「物質・エネルギー」については、小学5年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。中学校では、「生物的領域」については、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。「物理的領域」「地学的領域」「化学的領域」については、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。【グラフ6～10】

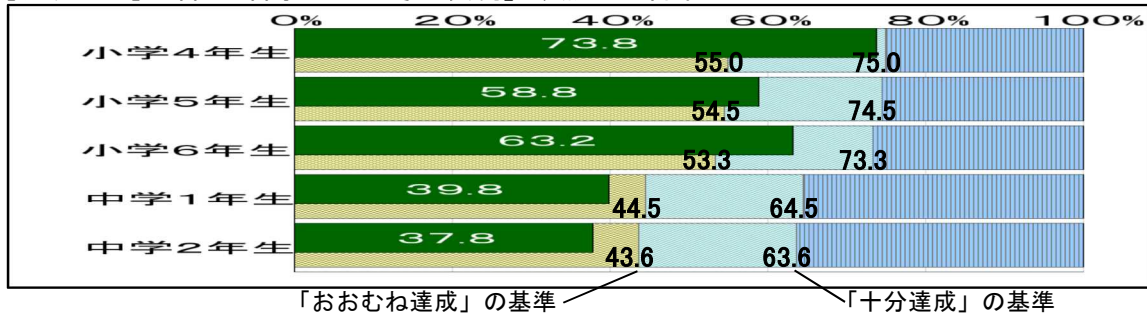
[グラフ1]理科 教科正答率



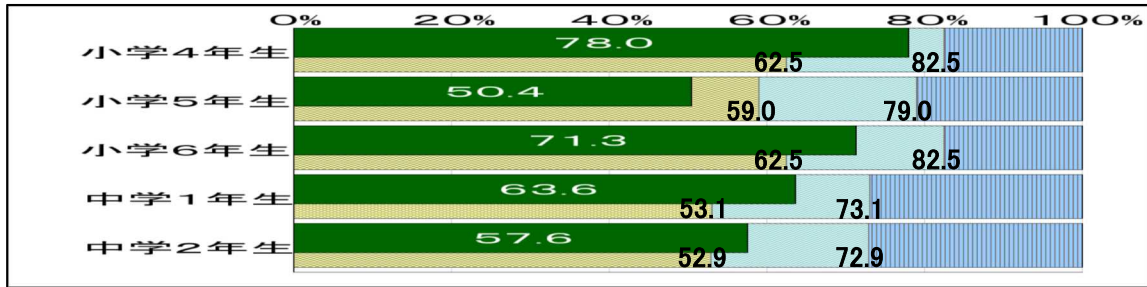
[グラフ2]理科 「活用」に関する問題の正答率



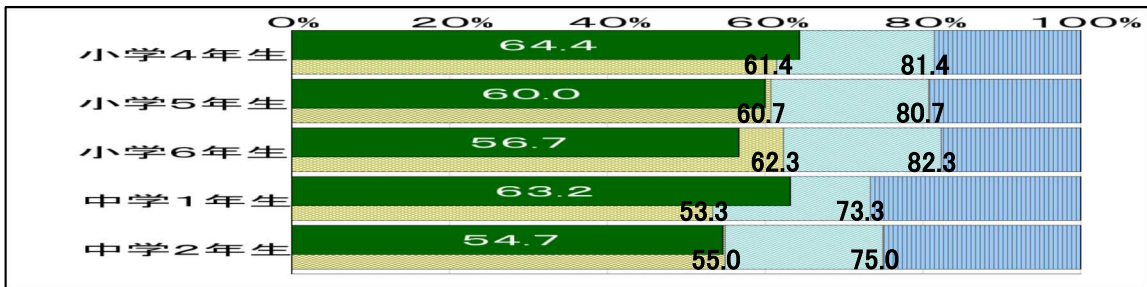
[グラフ3]理科 「科学的な思考・表現」観点の正答率



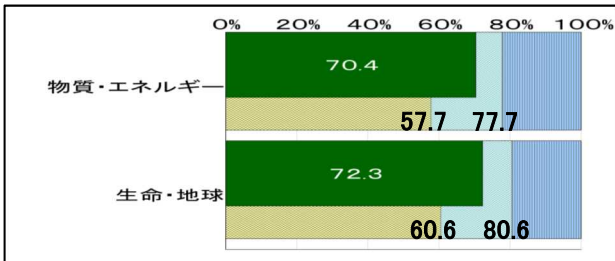
[グラフ4]理科 「観察・実験の技能」観点の正答率



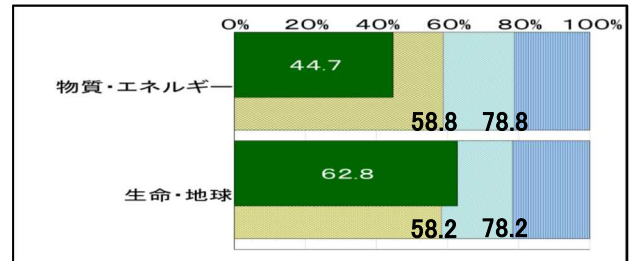
[グラフ5]理科 「自然事象についての知識・理解」観点の正答率



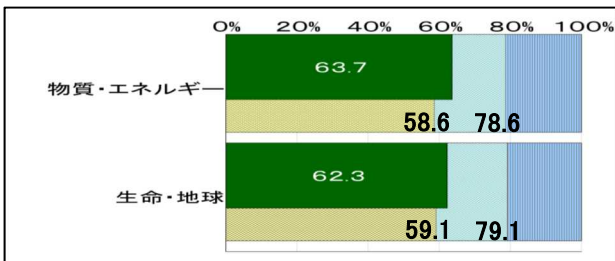
[グラフ6]小学4年生 内容・領域別正答率



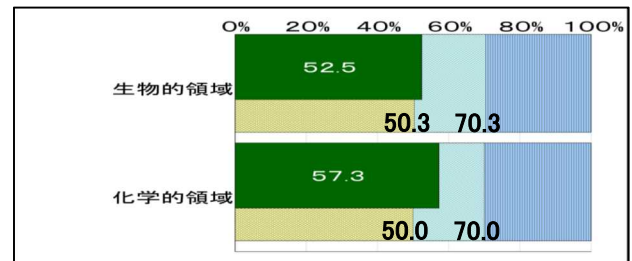
[グラフ7]小学5年生 内容・領域別正答率



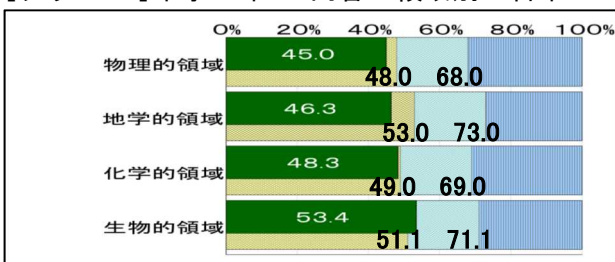
[グラフ8]小学6年生 内容・領域別正答率



[グラフ9]中学1年生 内容・領域別正答率



[グラフ10]中学2年生 内容・領域別正答率



(2) 成果と課題及び指導改善のポイント

中学校理科（中学1年生、中学2年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 状態変化や水の電気分解の実験を安全に行うための技能が身に付いている。
(中学1年生 13(1)、中学2年生 6(1))
- ◇ 植物を観察する技能について、同一学年の経年比較をすると、平成28年度[12月調査]から改善が見られる。
(「十分達成」の基準を1とした場合…… H28:0.50 → H29:0.91) ※1 (中学1年生 1(1) 2(1))
- ◆1 自然の事物・現象についての基礎的な知識を身に付けることについて課題が見られる。
(中学1年生 14(2)、中学2年生 5(1) 3(9) 10(1) 3(11) 2(2))
- ◆2 日常生活や社会の特定の場面において、身に付けた知識・技能を活用することについて、平成28年度[12月調査]に引き続き、課題が見られる。
(中学1年生 5、中学2年生 2 3(2) 5(2) 9(2))
- ◆3 実験結果を基に推定することに課題が見られる。
(中学1年生 3 2 8(2) 13(4)、中学2年生 7(2) 4(4))

※1 平成28年度佐賀県小・中学校学習状況調査[12月調査]Web報告書 参照

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆1 自然の事物・現象についての基礎的な知識を身に付けさせるためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 自然の事物・現象についての概念や原理・法則を学習する際は、観察、実験などを通して、生徒が自ら概念や原理・法則を見いだせるようにした上で理解できるようにしていますか。
 - 概念や原理・法則について説明する活動を通して、知識同士のつながりを意識しながら理解できるようにしていますか。
- ◆2 日常生活や社会の特定の場面において、身に付けた知識・技能を活用する力を育成するためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 授業の導入の段階で、教師の演示実験などを基に生徒と共に学習問題を導き出すなどして、生徒が、目の前で起こる事象と理科の学習を結び付けることができるようにしていますか。
 - 授業で学習した内容を使って日常生活に見られる事象を説明させる機会を設けていますか。
 - 例えば、製鉄や石油の精製など、理科で学習したことが様々な形で応用されて、自分たちの生活を豊かにしていることに気付かせ、理科の有用性を実感できるようにしていますか。
- ◆3 実験結果を基に推定する力を育成するためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 自分の設定した仮説や計画した観察、実験の方法が正しければ、どのような結果が得られるか見通しをもたせた上で観察、実験に取り組みせ、得られた結果を基に考察に取り組みせるようにしていますか。
 - 生徒が結果の考察を自分の言葉で書き、書いた考察を他の生徒に説明する活動を位置付けていますか。その際、個人で書いた考察を互いに吟味し合い、よりよいものにするように指導していますか。



他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て(方法)とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。

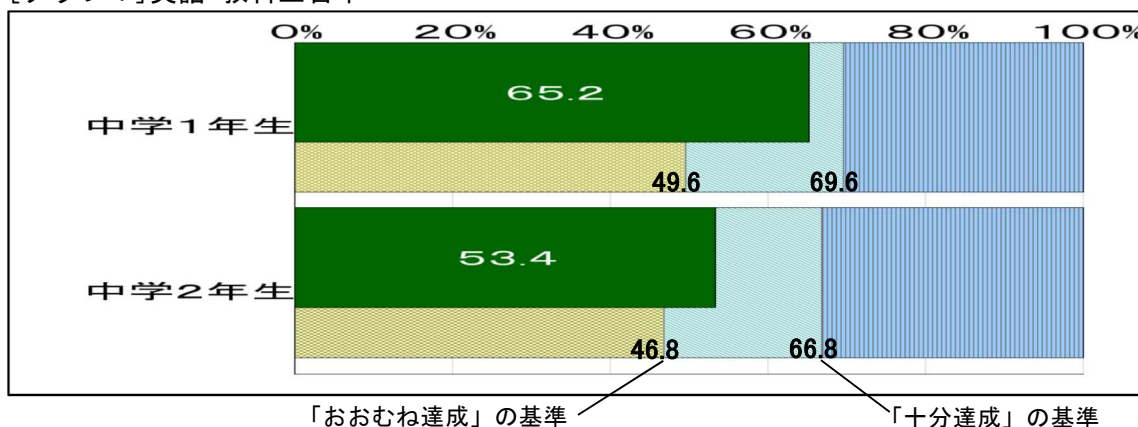
教科ごとの調査結果とその分析

英 語

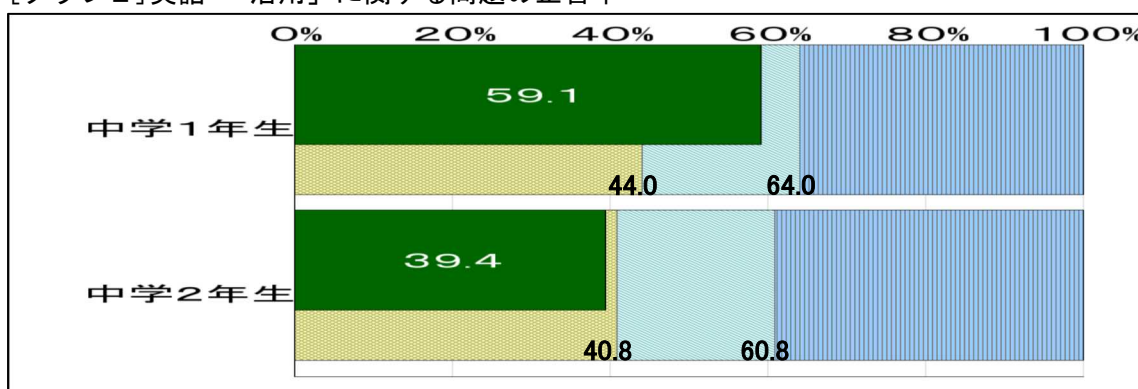
(1) 結果の概要

- 教科正答率は、全ての学年で「おおむね達成」を上回っている。[グラフ1]
- 「活用」に関する問題については、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ2]
- 観点別に見ると、「外国語表現の能力」については、中学1年生で「おおむね達成」の基準を上回っており、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。「外国語理解の能力」については、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。「言語や文化についての知識・理解」については、中学1年生で「おおむね達成」の基準を上回っており、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ3～5]
- 内容・領域別に見ると、「聞くこと」については、全ての学年で「十分達成」の基準を上回っている。「読むこと」については、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。「書くこと」については、中学1年生で「おおむね達成」の基準を上回っており、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ6、7]

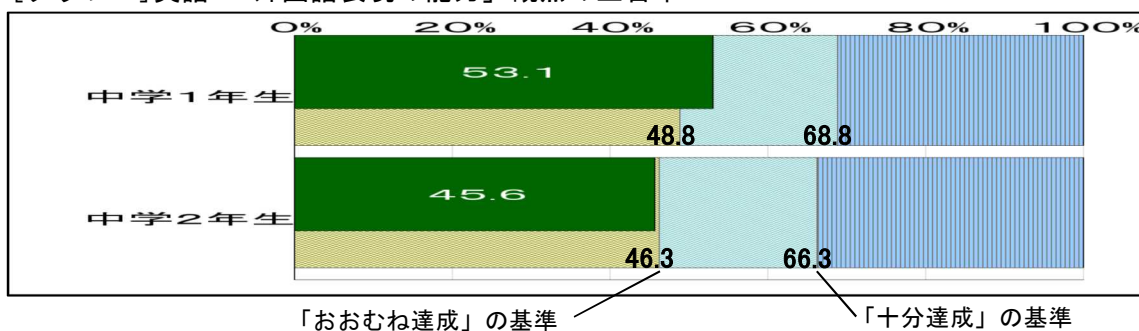
[グラフ1] 英語 教科正答率



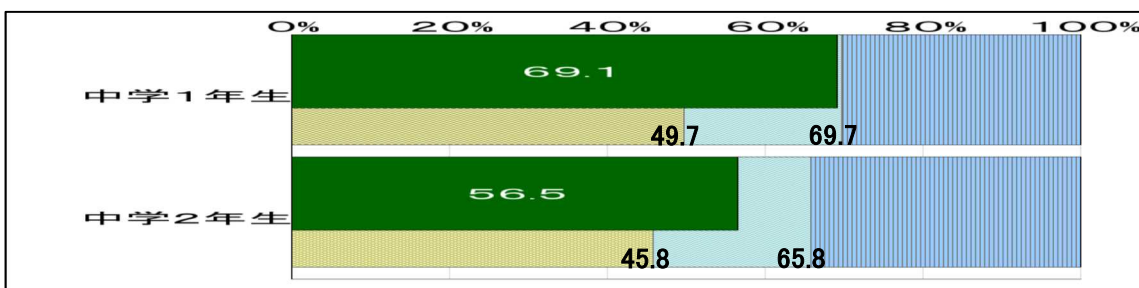
[グラフ2] 英語 「活用」に関する問題の正答率



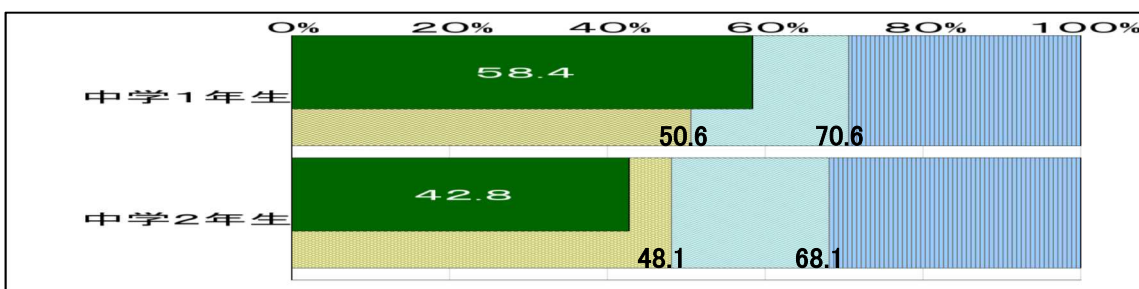
[グラフ3] 英語 「外国語表現の能力」 観点の正答率



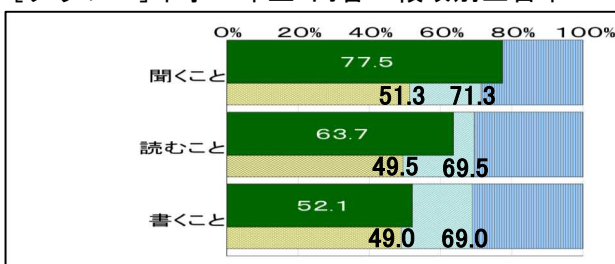
[グラフ4] 英語 「外国語理解の能力」 観点の正答率



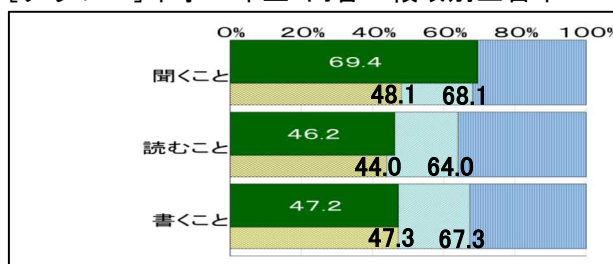
[グラフ5] 英語 「言語や文化についての知識・理解」 観点の正答率



[グラフ6] 中学1年生 内容・領域別正答率



[グラフ7] 中学2年生 内容・領域別正答率



(2) 成果と課題及び指導改善のポイント

中学校英語（中学1年生、中学2年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 対話を聞いて、適切に応じる力が、1年生で身に付いており、2年生では、同一学年の経年比較をすると、平成28年度[12月調査]から改善の傾向が見られる。
(「十分達成」の基準を1とした場合・・・H28:0.78→H29:1.05)※1 (中学1年生³、中学2年生²)
- ◇ 自然な口調で話される英語や対話を聞いて、概要や必要な情報を理解することができる。
(中学1年生²、中学2年生¹ ³(1))
- ◆1 対話文を読んで、話し手の意図や伝えようとしていることを正確に読み取ることに課題が見られる。
(中学1年生⁷(2)、中学2年生⁶(1)AB)
- ◆2 疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して、状況に合った文を正しく書くことに課題が見られる。
(中学1年生¹⁰(2)、中学2年生⁸)
- ◆3 読み取った対話の展開や発言の内容を根拠に、登場人物のこの後の言動を推測することに課題が見られる。
(中学2年生⁶(2))

※1 平成28年度佐賀県小・中学校学習状況調査[12月調査]Web報告書 参照

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆1 対話文を読んで、話し手の意図や伝えようとしていることを正確に読み取ることができるようにするためには、本文を読解する学習において、次のような指導を行うことが大切です。
 - 書かれている情報を問う「事実発問」、書かれている情報を基に書かれていない状況を推測させる「推論発問」、書かれている内容に関して、生徒自身がどう考えるかを問う「評価発問」といった発問構成を意識して発問をしていますか。
 - 生徒が発問に対する答えを考えたときに、本文中に印を付けたり、メモを取ったりしながら分かるまで繰り返し読むように指導していますか。
 - 生徒が発問に対する答えを発表したり、書いたりするような活動を設定していますか。
 - 生徒が発問に対する答えの根拠を述べたり、書いたりするように指導していますか。
 - 本文に書かれている内容に関する自分の意見や感想を、ペアやグループで意見交換するような活動を設定していますか。
- ◆2 疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して、状況に合った文を正しく書くことができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - Input（導入の場面）において、Teacher Talk を用いるなどして、生徒が表現の意味や使用場面について考えることができるようにしていますか。
 - 教科書の基本文や本文を扱うときに、状況を推測させるような発問をしていますか。
 - Intakeにおいて、実際のコミュニケーション場면을想定した言語活動を設定し、生徒が試行錯誤しながら、発話を考えることができるような機会を設けていますか。
 - Outputにおいて、「原稿を書いて、発表する」「友達の発話した内容について感想を言う」「英文を読んで、感想を述べ合う」など、複数の技能を統合した言語活動を設定していますか。
 - 生徒が記述した英文は、教師がチェックし、適時に Feedback していますか。
 - Outputにおける言語活動では、録画した生徒の発話の様子を視聴させたり、自分が発話した英文を記述させたものを教師がチェックして生徒に Feedback したりするなど、生徒自身が自分の発話した内容を振り返り、見直すことができるような工夫を行っていますか。
- ◆3 読み取った対話の展開や発言の内容を根拠に、登場人物のこの後の言動を推測できるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 教科書の本文や基本文に記されている場面や状況を基に、生徒が、登場人物のやりとりからイメージを膨らませて、発話を付加するような活動を設定していますか。
 - 発話を付加した英文を互いに発表し合い、Sharing する中で、友達の発表に対して、視点に基づく気づきや感想を述べたり書いたりするような活動を設定していますか。



他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て(方法)とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。

